

浪速区の都市景観資源紹介



浪速区の都市景観資源

大阪市では、浪速区の都市景観資源の発掘のため、「わがまち自慢の景観」を募集し、大阪市都市景観委員会の審議を経て、平成29年3月17日に27件を都市景観資源に登録しました。

あかてめくいいなりじんじゃ

1. 赤手拭稲荷神社



◆所在地

浪速区稲荷2丁目6番26号

◆概要

創祀は慶長年間(1596年頃)、御祭神は豊受天大神(とようけのおおかみ)、猿田彦大神(さるとひこのおおかみ)、宇受売神(うずめのおおかみ)、倉稲魂命(うがのみたまのみこと)、大山祇神(おおよまづみのみこと)

慶長年間の頃は、この辺りは堤防でその上に大きな老松があり、土地の人は波除松と呼んでいた。その松の下に祀られていたので、当初は松の稲荷と呼ばれていた。この稲荷はたいへん靈驗あらたかで参詣の方がたえず、そのうち誰かはじめるともなく社前に赤い手拭いをお供えするようになり、いつしか「赤手拭稲荷神社」という名で世に広まったということである。

もとは無格社だったが、明治42年(1909年)6月4日に泉南郡東鳥取村大字鳥取中宇西の原の村社稲荷神社の倉稲魂命、大山祇神を合祀して村社となった。かつての社殿は昭和20年(1945年)の大阪大空襲で焼失し、現在の社殿は昭和23年(1948年)に再建されたものである。

また古典落語の「ゾロゾロ」の舞台となった神社としても知られている。

いまみやえびすじんじゃ

2. 今宮戎神社



◆所在地

浪速区恵美須西1丁目6番10号

◆概要

天照皇大神・事代主命・外三神が祀られている。かつては海岸沿いにあり、このような海辺で物資の集まりやすい土地では、いわゆる「市」が開かれたが、その市の守り神としても戎さまが祀られるようになった。

室町時代以降庶民の信仰はより厚くなり、また大阪の町も発達し、大阪町人の活躍が始まる。江戸期になると大阪は商業の町としてより一層の繁栄を遂げ、それと期を一にして今宮戎神社も大阪の商業を護る神様として篤く崇敬されるようになった。十日戎の行事もこの頃から賑わいをみせ、さらに元禄期になると十日戎の祭礼を彩る宝恵駕(ほえかご)の奉納も行われるようになり今日と同じような祭礼となった。

現在では、1月9・10・11日の三日間の祭礼で約100万人の参詣者があり、大変な賑わいをみせてくれる。

3. はんかいせん なにわく 阪堺線 (浪速区)



◆所在地

浪速区恵美須西2丁目、3丁目

◆概要

阪堺電車は大阪で唯一の路面電車として、また市民の生活の足として親しまれている。恵美須町から堺市の大小路を結ぶ阪堺線は明治44年(1911年)に開通、その翌年には浜寺駅前まで全線が開通し、平成23年(2011年)に100周年を迎えた。単なる公共交通機関としてだけではなく、カラフルで愛らしい車両、昭和の薫りただよぶ沿線の表情が鉄道ファンをはじめ多くの人々に愛され続けている。

4. しんせかいいちば 新世界市場



◆所在地

浪速区恵美須東1丁目

◆概要

地下鉄恵美須町駅3号出口を出て、通天閣本通商店街を通天閣に向かって歩く途中の右手に市場の入口がある。約150mの屋根付きの商店街。

和菓子や銘茶の老舗、こだわりの弁当屋や漬物店、履物屋兼世界的なジャズレーベルなど個性的な店舗が軒を重ね、100年以上の歴史を誇る地元根付いた市場である。

開設：大正3年(1914年)7月、
再建：昭和21年(1946年)9月。

5. つうてんかくほんどおりしょうてんかい 通天閣本通商店会



◆所在地

浪速区恵美須東1丁目

◆概要

地下鉄恵美須町駅3号出口から通天閣の北側まで延びる約200mの商店街。古くからある店が多く、喫茶店に飲食店、食料品や衣料品店舗などが軒を重ねる。通りの方は、アーチ型のアーケードにカラータイル舗装で、パリのショッピングモールを真似てつくられた。

明治45年・大正元年(1912年)の新世界創設の頃から、恵美須通として栄え、昭和31年(1956年)の二代目通天閣再建を機に通天閣本通と改め、食の都大阪ならではの飲食店を中心に、物販など多彩な商店街として賑わっている。

6. さいかい ギャラリー再会



◆所在地

浪速区恵美須東1丁目4番16号

◆概要

昭和28年(1953年)、建築家の石井修氏が設計した、国指定登録有形文化財。通天閣から放射状にのびる街路沿いに建つ。間口3間、奥行10間で、中庭を介して店舗と住居を通路で繋ぐ伝統的町家形式を踏襲した造り。独特の幾何学模様の破風飾り、ねじれ柱付のバルコニー、ガス灯風の照明など、ファサードが特徴的。もとは純喫茶「再会」として賑わったが、現在は月1回のジャズライブ開催時のみ入店できる。

構造及び形式等：木造2階建、スレート葺、建築面積97㎡。



7. 新世界国際劇場 しんせかいこくさいげきじょう



◆所在地

浪速区恵美須東2丁目1番32号

◆概要

すっかり珍しくなった手書きの映画看板が郷愁を誘う映画館である。昭和5年(1930年)、芝居小屋としてオープン。外観は今も演舞場時代のままで、昭和初期らしい重厚なデザインが目を引く。

8. ジャンジャン横丁 よこちょう



◆所在地

浪速区恵美須東3丁目

◆概要

ジャンジャン横丁またはジャンジャン町との愛称で呼ばれている商店街。正式には南陽通商店街振興組合。この愛称の「ジャンジャン」とは三味線の音であり昭和初期、飲み屋街がたくさんあった頃、特にジャンジャン町にはその三味線を引き流しする者がたくさんいた。常に三味線の音が聞こえていたことから、いつの間にかジャンジャン町との愛称で呼ばれるようになった。

